

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2023年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
工期	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日		作成者	中島 強太
作業名称	休憩施設 インターロッキング段差補修	作業手順書	作成年月日	令和3年6月4日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	2トラック		改正年月日	令和3年9月21日
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	小パール、大パール、ゴムハンマー、鏝、ほうき、角スコップ、プレート		現場責任者	
	桧木、珪砂、セメント、砂 202109 機材・材料追加明記		協力会社	会社名 -
保護具	ヘルメット、手袋、保護メガネ		協力会社責任者	自署サイン -
	自動車運転免許証		作業順序	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す			1	現地確認
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員全てを記 す)	作業責任者 1人、作業員 2人、保安員 2人 ※m数により変更有り		2	準備作業
	202109 施工面積により人員変更追加 合計 5名		3	既設インターロッキングブロック撤去
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		4	下地調整(床付け)
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自署サインする)		5	インターロッキング再設置(不陸修正)
			6	メチ砂(珪砂)設置
			7	後片付け
			8	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						
現地確認(全員)									
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認・動線の確認							
準備作業(全員)									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
作業ヤードの確保 (責任者、作業員、保安員)	作業開始前に、作業現場 周辺のヤードをカラーコーン、コーンバーにて仕切る	お客様の通行に支障をきたさない作業ヤードの確認	動線を塞ぎ、お客様の通行に支障をきたす	△	○	△○	3		作業前にお客様の動線をしっかりと確保し、作業に必要以上の範囲を取らない。
既設ILBの撤去 (責任者、作業員)	不陸が発生している部分を 小パール等で撤去する	手元注意、飛散注意	撤去する際、他の作業員とパールで接触する	△	×	△×	4		パール等を使用する際は、周囲の作業員は2m以上の離隔を取り、作業者は手袋を着用し作業する。
下地調整(床付け) (責任者、作業員)	撤去完了後、不陸修正の 為、下地調整(床付け)を行う	鏝等による手元の怪我 段差による転倒	移動しながらの下地調整作業時、手元に集中するあまり段差にて転倒する	△	○	△○	3		作業時は段差付近に土嚢等を設置し段差を減らす
インターロッキング再設置 (不陸修正) (責任者、作業員)	撤去したILBを不陸修正を 行って設置する	ハンマー使用時、誤って手と 接触する	ILBを設置する際、ハンマーで誤って手を接触する	△	△	△△	3		ハンマー使用時は、桧木等を活用して直接手で触れる事を極力減らして行う。
メチ砂(珪砂)設置 (責任者、作業員)	不陸修正完了したILBメチ 部に充填砂を設置する	充填砂の飛散	強風時に充填砂設置時は、周囲に飛散し第3者被害が発生する	△	△	△△	3		強風時は、一時作業中止 又、お客様通行時の作業一時中止
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている							